

日刊 勤労千葉

80.12.29

No. 619

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(会衆)三三三三・七二〇七

抗議し 強行発令に 解雇処分 への 部長組織 布 減産 争をうちぬく

怒りもあらたに、「不当処分粉碎」ジェット延長 阻止」闘争の爆発をきりひらこう！

国鉄当局は、八〇年末段階で布施組織部長に対する「四・一五津田沼事件」を口実とした解雇処分発令と、「八一・三ジェット延長」提案を同時に強行しようとして策動してきたが、ゆが勤労千葉の闘争指令才三号にもとづく「ジェット延長策動阻止と不当処分粉碎を結合した闘争準備体制」構築によって同時年内強行を断念せざるをえない状況に落ちた。

12月24日夕刻、勤労千葉の年末段階の反撃の闘いの高揚に恐怖した国鉄当局は、枯息にも布施組織部長に対する解雇発令のみ分離し強行してきた。これに対しゆがゆがは25日ただちに全支部での抗議集会、全組合員による減産闘争に決起した。

反動局長秋山に怒りをタタキつけよ

「四・一五津田沼事件」を口実とする布施組織部長への解雇処分攻撃は、極めて卑劣な政治的意図にもとづくきたない処分である。「四・一五」そのものが勤労「本部」反動分子の津田沼襲撃・80春叩点破壊攻撃として露骨にしかけられたものであり、しかもゆが勤労千葉に粉碎されるや、当局に「勤労千葉を処分してくれ」と泣きつくことよって引き出されたものである。

勤労千葉全支部組合員は、この不当処分の悪らつさをもっともよく知るがゆえに、その主謀者反動局長秋山と勤労「本部」反動分子へ怒りを叩きつける闘いへとただちに決起したのだ。

全支部での抗議集会、減産闘争は確実にその怒りの深さを表わすものとして展開された。とりわけ「四・一五」の当該支部である津田沼支部では、昼休み区長室での大衆的抗議行動をもって、当局への糾弾・追及を行った。結集した組合員の怒りの大きさに驚がくした区長は、組合員の追及に答えることができず茫然自失立ちすくむだけであった。津田沼だけでなくこの現場にあっても現場長はあるかほとんど全ての現場職制が「四・一五」とその処分」について何一つ正当な論理

をもつて答えられず、頭をかかえこみ終始うつむいて沈黙しているありさまなのである。このような現場当局の完全な消耗ぶりを知ってか知らずか、自からは千葉局三階局長室の深いソファにぬくぬくと居座れる反動局長秋山を、ゆがゆがは断じて許すことはできない。

処分の加担者「本部」反動分子、一部裏切り分子弾劾！

「布施のクビ一つでは少い」クビは当然」と公言する「本部」反動分子とその手先とつた一部裏切り分子をもゆがゆがは断じて許さない。この813予防弾圧としての年末処分発令とあい呼応して「本部」反動分子は、鈍子支部での慣行経緯をふみにじって支部大会決定に反する「業務再開」なるペテン的、ファッショ的暴挙に走った。

勤労千葉と広れた支援の力が「813」へむけて大きく動きはじめた事に恐怖して当局と「本部」革マル反動分子がなりふりかまわぬ組織破壊攻撃を開始したのだ。労働者のクビ切りを権力・当局にこいぬがい、解雇攻撃に呼応して組織破壊を企む「本部」反動分子と一部裏切り分子が、まごうことなき全国鉄労働者の敵対者であることを自ら証明した。全組合員の皆さん！怒りも新たに「不当処分粉碎」「ジェット延長阻止」を結合し、反動派の攻撃を木、端みじんに粉碎し、813へ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ